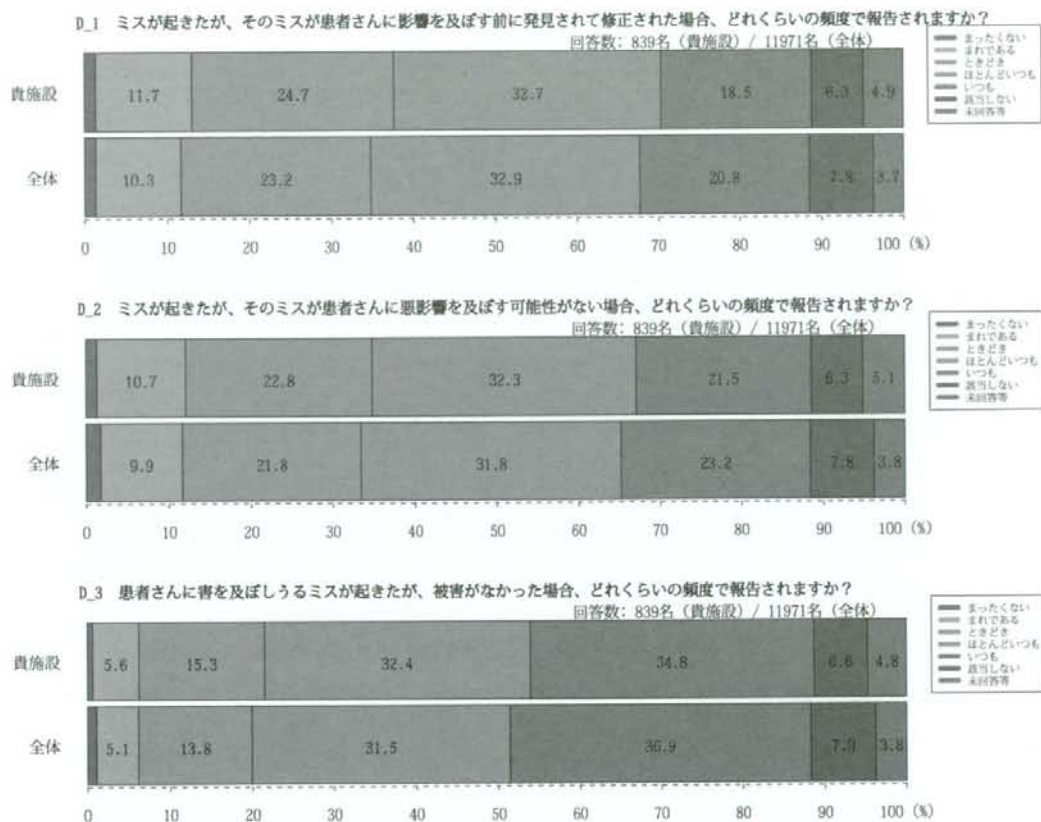
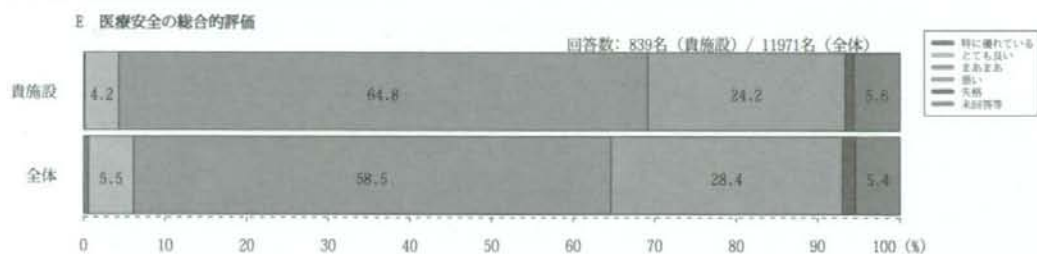


2.9 D. あなたの部署の出来事の報告頻度についてお聞きします

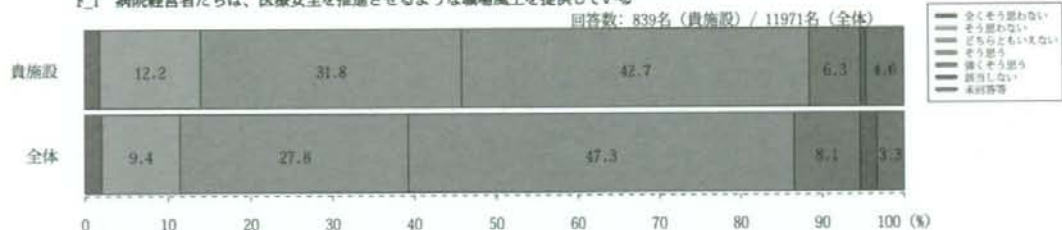


2.10 E. あなたの部署の医療安全を総合的に評価して下さい

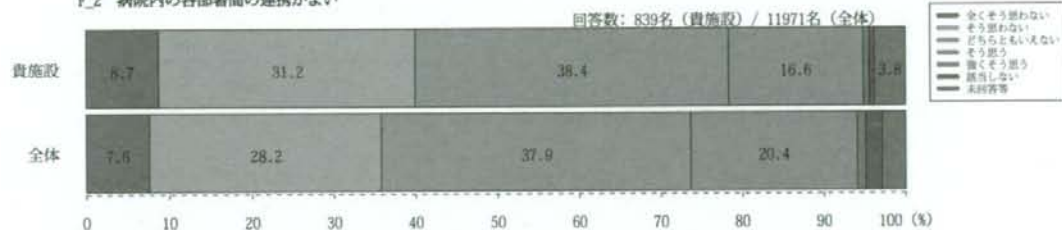


2.11 F. あなたの働いている病院についてお聞きします (1)

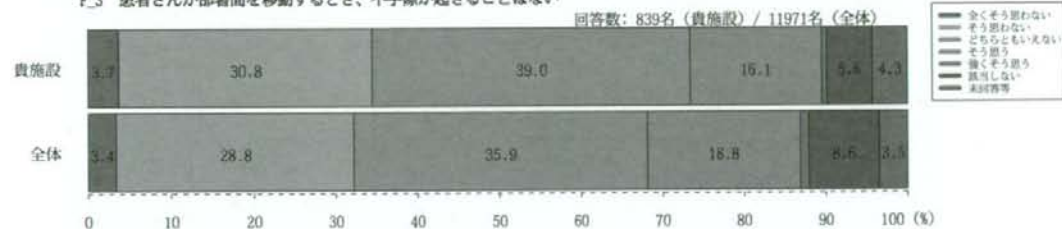
F_1 病院経営者たちは、医療安全を推進させるような職場風土を提供している



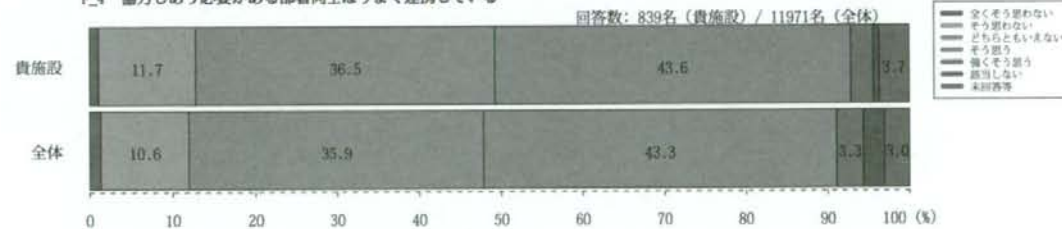
F_2 病院内の各部署間の連携がよい



F_3 患者さんが部署間を移動するとき、不手際が起きることはない



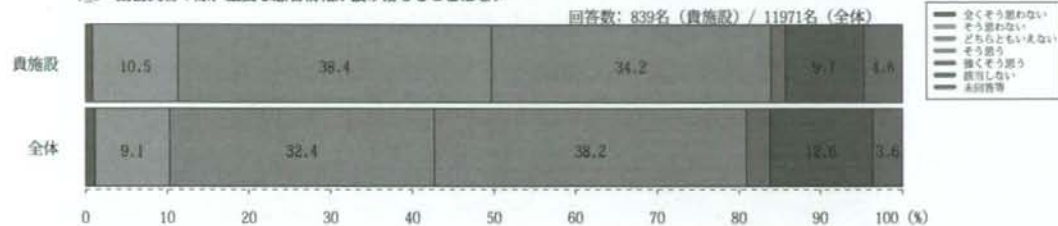
F_4 協力しあう必要がある部署同士はうまく連携している



2.12 F. あなたの働いている病院についてお聞きします (2)

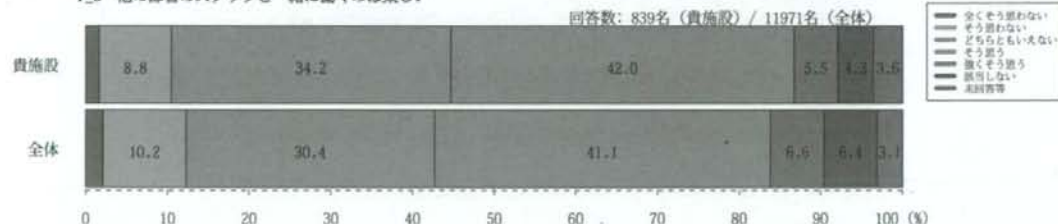
F_5 勤務交替の際、重要な患者情報が抜け落ちることはない

回答数: 839名(貴施設) / 11971名(全体)



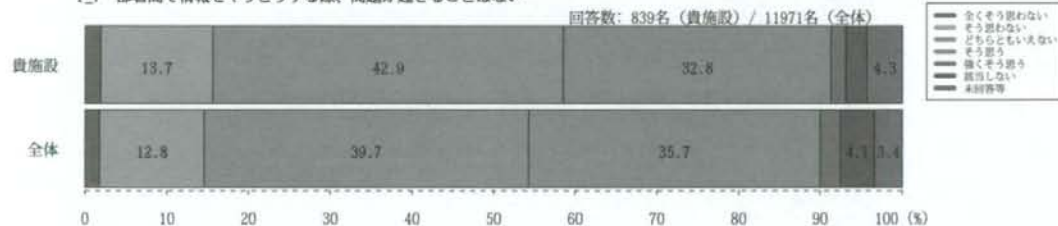
F_6 他の部署のスタッフと一緒に働くのは楽しい

回答数: 839名(貴施設) / 11971名(全体)



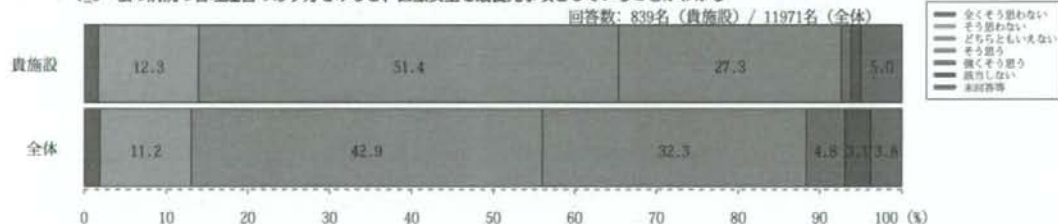
F_7 部署間で情報をやりとりする際、問題が起きることはない

回答数: 839名(貴施設) / 11971名(全体)



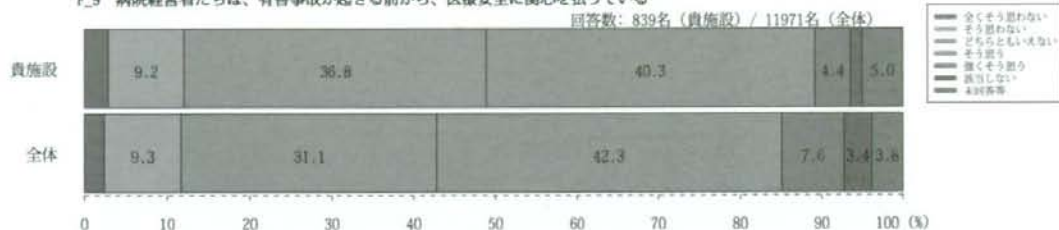
F_8 私の病院の管理運営のあり方をみると、医療安全を最優先事項としていることがわかる

回答数: 839名(貴施設) / 11971名(全体)

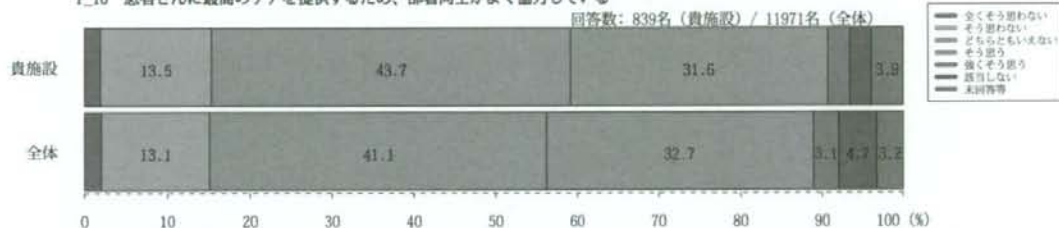


2.13 F. あなたの働いている病院についてお聞きします (3)

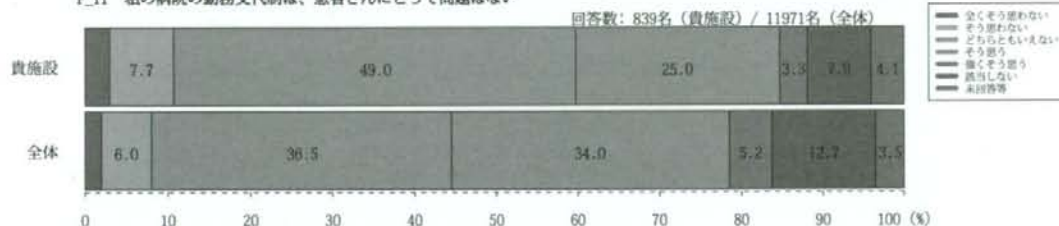
F_9 病院経営者たちは、有害事故が起きる前から、医療安全に関心を払っている



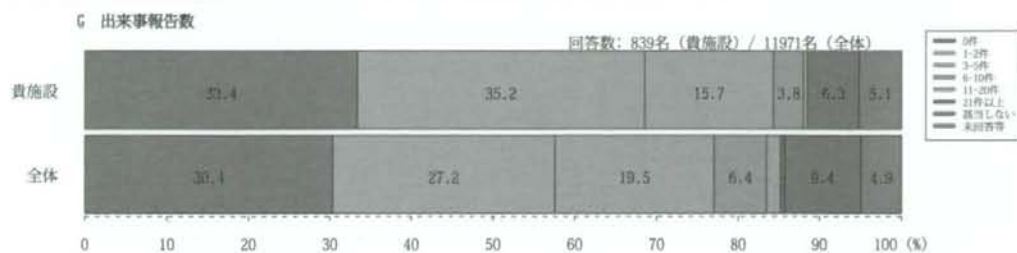
F_10 患者さんに最高のケアを提供するため、部署同士がよく協力している



F_11 私の病院の勤務交代制は、患者さんにとって問題はない



2.14 G. 出来事の報告数について

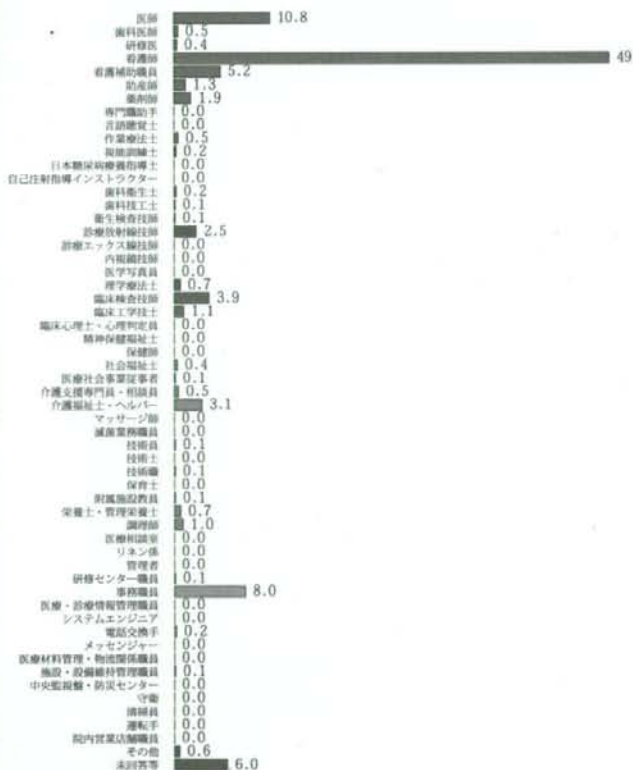


第3章

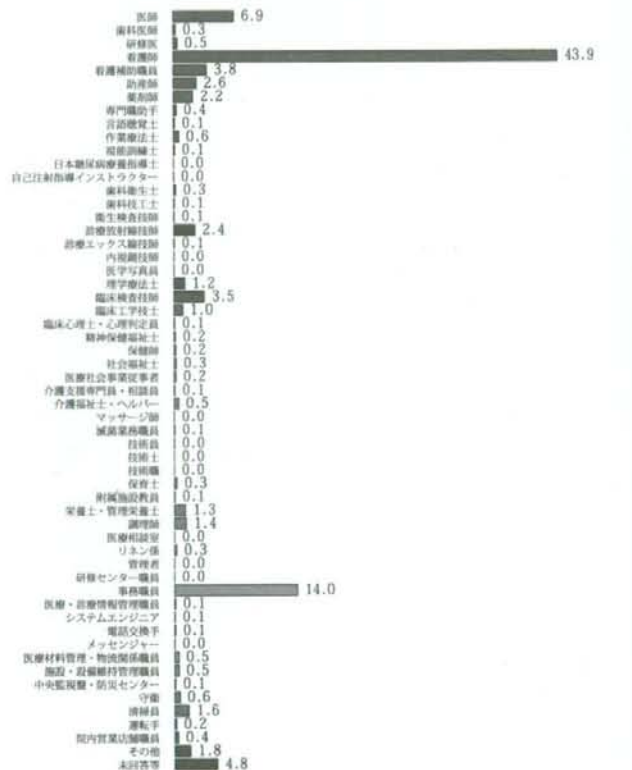
回答者の属性

3.1 職種 (複数回答者についてはそれぞれの職種に含めた)

貴施設 (回答数:延べ 840名)



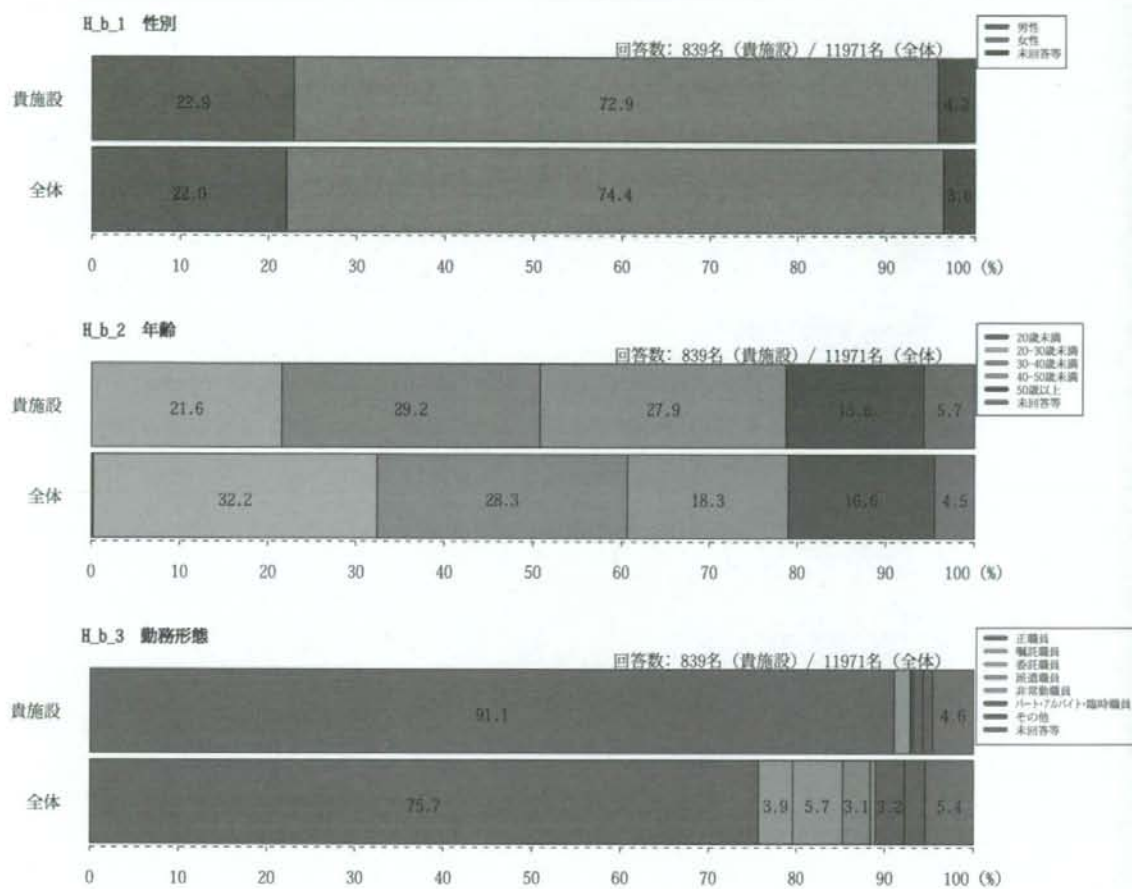
全体 (回答数:延べ 11989名)



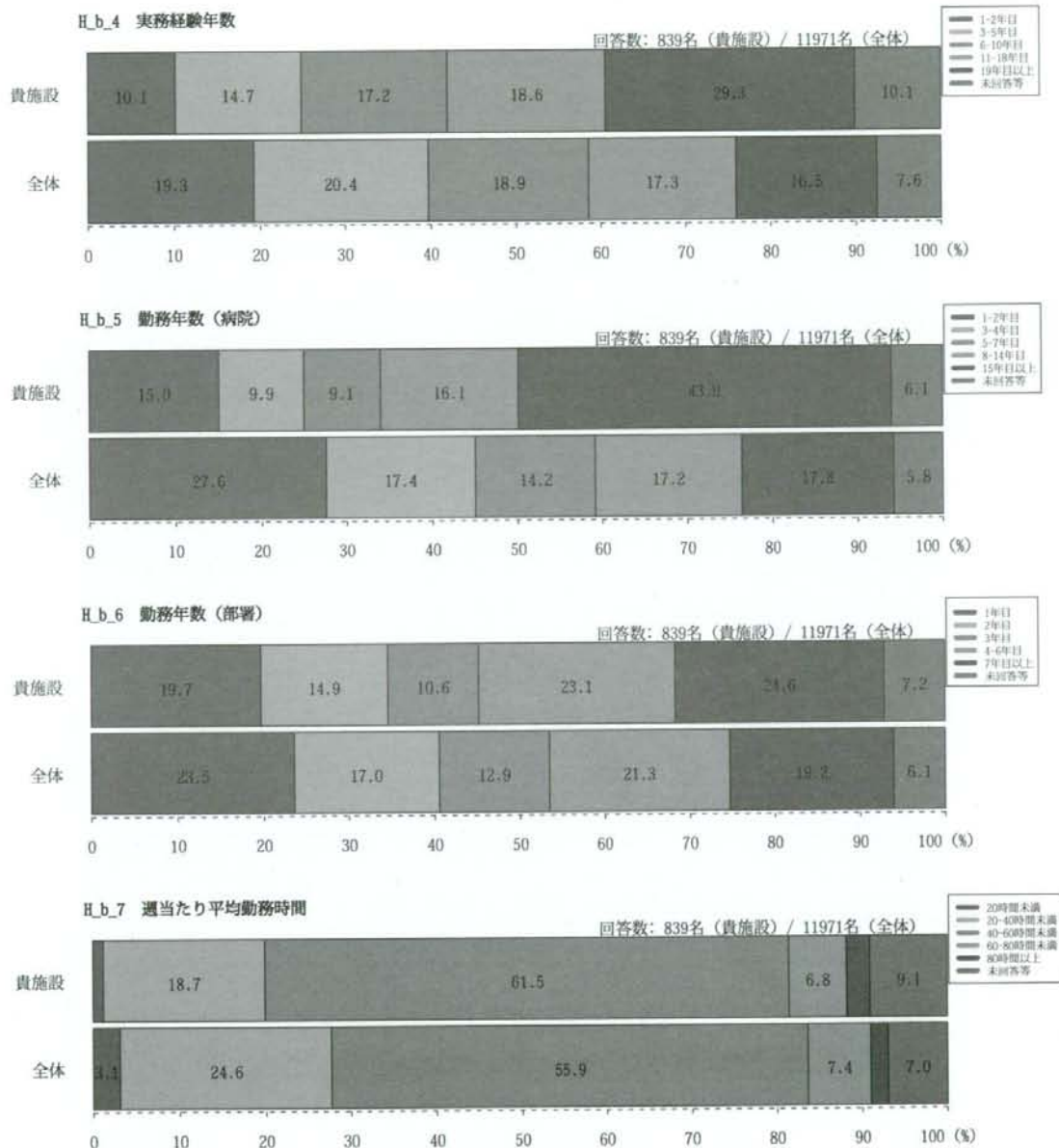
0 10 20 30 40 50 (%)

0 10 20 30 40 50 (%)

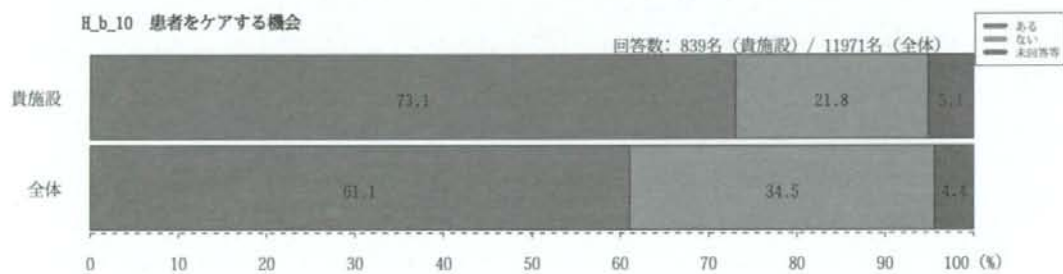
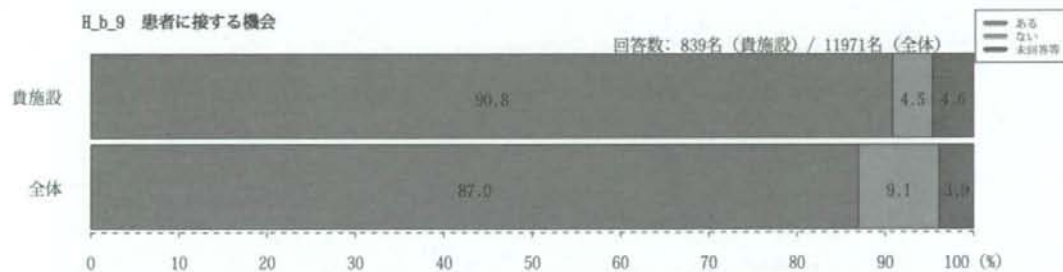
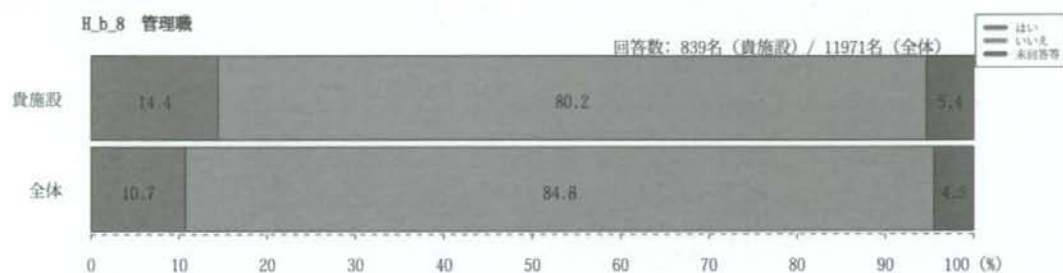
3.2 性別/年齢/勤務形態



3.3 実務経験年数/勤務年数（病院）/勤務年数（部署）/勤務時間



3.4 管理職/接する機会の有無/ケアする機会の有無



付録

4.1 箱ひげ図の読み方

ここでは、箱ひげ図の読み方を概説する。例として、A学校とB学校のテスト結果（仮想データ）を用いる。テストの点数の取りうる値は、0-100点である。両学校の生徒数は、400人とする。

2つの学校別に算出した、テスト結果の基礎統計量を表4.1に示した。A学校の平均点は76.7点であり、B学校よりも25.6点高い。また、得点のチラバリ（標準偏差）は、B学校の方が高い。つまり、A学校の生徒の方が、均質に高い成績を収めていることが、平均値と標準偏差より読み取れる。これらの結果を図示したものが、右図のヒストグラムである。

次に、中央値を確認すると、A学校の中央値は79点であり、B学校よりも28.5点高い。また、得点のチラバリを確認すると、A学校の場合は、25%点は68点、75%点は89点であることから、50%の生徒は68-89点を収めることが確認できる。一方、B学校の場合は、50%の生徒は39-65点を収めることが確認できる。これらの結果を図示したものが、右図の箱ひげ図である。

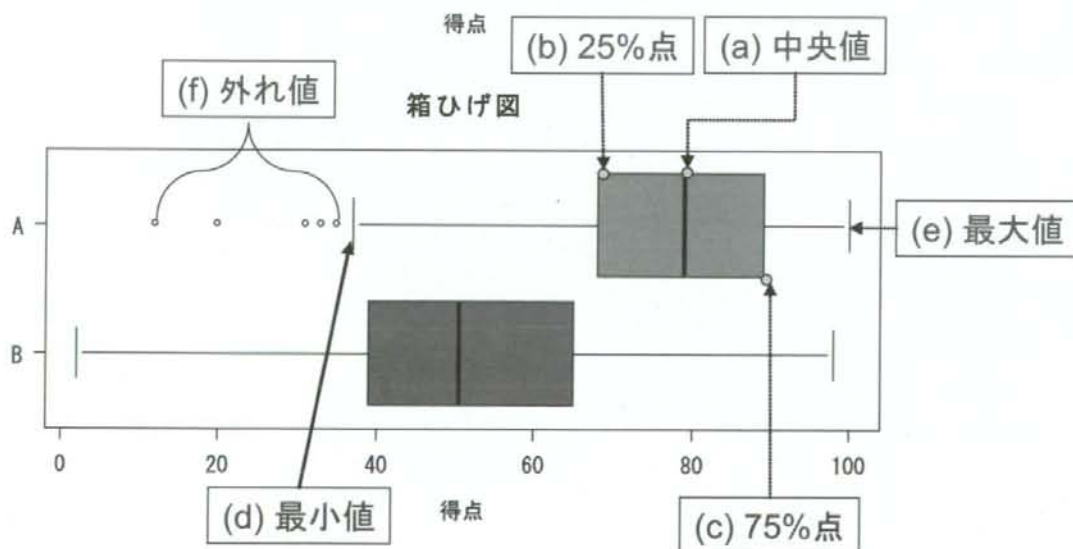
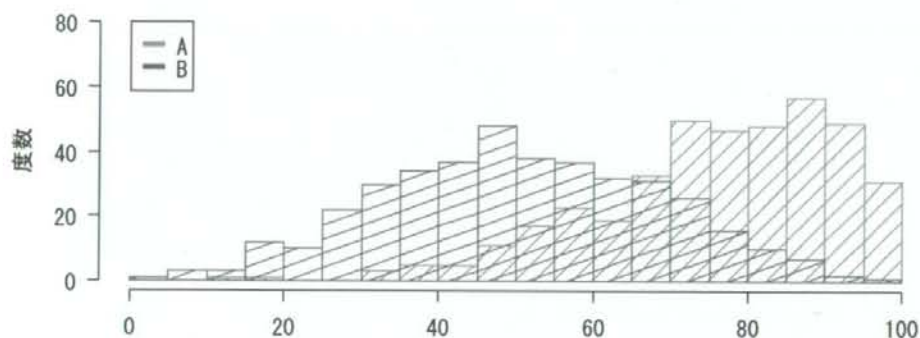
表4.1 基礎統計量

	A	B
平均値	76.7	51.1
標準偏差	15.4	17.8
最小値	12	2
25%点	68	39
中央値	79	50.5
75%点	89	65
最大値	100	98

箱ひげ図では、以下の6つの情報が集約されている。

- (a) 中央値: 得点を低い者から順に並べたとき、50% (中央) に位置する値
- (b) 25%点: 得点を低い者から順に並べたとき、25%目に位置する値
- (c) 75%点: 得点を低い者から順に並べたとき、75%目に位置する値
- (d) 最小値: $25\% \text{点} - 1.5 \times (75\% \text{点} - 25\% \text{点})$ を「下側境界点」とし、中央値寄りで下側境界点に最も近い値を「最小値」としている。
- (e) 最大値: $75\% \text{点} + 1.5 \times (75\% \text{点} - 25\% \text{点})$ を「上側境界点」とし、中央値寄りで上側境界点に最も近い値を「最大値」としている。
- (f) 外れ値: 下側境界点よりも小さな値、上側境界点よりも大きな値は「外れ値」としている。

ヒストグラム



■ 解釈のポイント 本資料で出てくる箱ひげ図の解釈の3ポイント

- (1) 中央値が偏差値 50 よりも高いか否か
高い 参加施設の平均と比べて、安全文化が高い
低い 参加施設の平均と比べて、安全文化が低い
- (2) 25% 点と 75% 点の幅は狭いか広いか
狭い 安全文化の評価の個人差は小さい
広い 安全文化の評価の個人差は大きい
- (3) 最小値と最大値の幅は狭いか広いか
狭い 安全文化の評価の個人差は小さい
広い 安全文化の評価の個人差は大きい

医療における安全文化に関する調査

この調査は、貴院の「医療安全」「医療過誤」「出来事の報告」に対するあなたのご意見をお伺いするものです。貴院の「医療における安全文化の現状」「安全な医療を提供するための課題」を把握するために必要な調査です。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力のほど宜しくお願い致します。

【説明】

- (1) 10～15分程度の回答時間がかかります。
 (2) 設問への解答は、あなたの考えに最も近い番号を1つ選んで○を付けて下さい。
 (3) 本調査は匿名で行うもので、個人が推測される形で病院へデータおよび結果をお返しいたすことはありません。
 (4) 調査票は両面印刷になっていますので、記入漏れにご注意下さい。

本調査で使用されている3つの用語は、以下のようにお考え下さい。

【出来事】患者への障害の有無にかかわらず、全ての種類の過誤、ミス、インシデント、アクシデント、逸脱した医療行為。

【医療安全】医療提供の過程から生じる、患者への傷害・有害事象を回避・予防すること。

【部署】あなたが主として勤務し、サービスを提供する、病院内の「職場」「部門」「診療科」。

A. あなたが働いている部署についてお聞きします

この病院における、あなたの主な職場・部門はどこですか。
 別添の「部署一覧」より最も当てはまるものを1つだけ選んでご記入下さい。

私の職場・部署は [] ⇒「その他」の場合は、具体的にご記入下さい: []

以下の文を読み、あなたが勤務する部署について、当てはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

あなたの部署を念頭においてお答え下さい・・・	全く 思わない	そう 思わない	どちら も い ま い	そう 思 う	強 く 思 う	最 も 思 い な い
① 私の部署では、職員はお互いに助けあって仕事をしている	1	2	3	4	5	9
② 仕事を行うのに十分な数の職員がいる	1	2	3	4	5	9
③ 急ぎの仕事が多くある場合、仕事を終わらせるために、チームとして一緒に取り組む	1	2	3	4	5	9
④ 私の部署では、スタッフはお互いに敬意をもって対応している	1	2	3	4	5	9
⑤ 私の部署のスタッフは、患者さんのケアに最適な労働時間よりも長時間にわたって働いている	1	2	3	4	5	9
⑥ 医療安全を向上させるための取り組みを積極的に行っている	1	2	3	4	5	9
⑦ 患者さんのケアにとって最良とは言えないほど常勤が少なく、派遣職員・臨時職員が多い	1	2	3	4	5	9
⑧ ミスをすると不利な立場になると感じる	1	2	3	4	5	9
⑨ 私の部署では、ミスは良い変化へとつながってきた	1	2	3	4	5	9
⑩ 私の部署で深刻なミスが起きていないのは偶然でしかない	1	2	3	4	5	9
⑪ 私の部署のどこかが非常に多忙になった場合、他のスタッフが手助けする	1	2	3	4	5	9
⑫ 出来事が報告される場合、問題そのものではなく、誰が起こしたかということが報告されるように感じる	1	2	3	4	5	9
⑬ 医療安全を向上させるための変更を行った後、その効果を評価している	1	2	3	4	5	9
⑭ あまりにも多くのことを、あまりにも大急ぎでやろうと、「緊急事態」のように仕事をしている	1	2	3	4	5	9
⑮ より多くの仕事をするために医療安全が犠牲になることは決してない	1	2	3	4	5	9

あなたの部署を念頭においてお答え下さい・・・

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	強くそう 思う	該当 しない
⑬ スタッフは、自分のミスが人事記録に残されることを心配している	1	2	3	4	5	9
⑭ 私の部署では、医療安全に問題がある	1	2	3	4	5	9
⑮ 私の部署の業務手順やシステムは、 過誤を予防することができるようになっている	1	2	3	4	5	9

B. あなたの上司や管理者についてお聞きします

以下の文を読み、ご自分の直属の上司・管理者について当てはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

あなたの上司や責任者を念頭においてお答え下さい・・・

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	強くそう 思う	該当 しない
① 決められた医療安全の手順通りに仕事が行われると突める	1	2	3	4	5	9
② スタッフから医療安全を向上する提案がなされたときは、真剣に考慮する	1	2	3	4	5	9
③ 非常にプレッシャーがかかってきたとき、上司や責任者は、 通常の手続きを簡略化してでも急いで仕事をすることを求める	1	2	3	4	5	9
④ 医療安全の問題が繰り返し起きていても見過ごしている	1	2	3	4	5	9

C. コミュニケーションについてお聞きします

以下の文を読み、所属部署ではどの程度実行されているか、当てはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

あなたの部署を念頭においてお答え下さい・・・

	まったく ない	まれで ある	ときどき	ほとんど いつも	いつも	該当 しない
① 出来事の報告に基づいて実施される変更があれば、 それについてフィードバックを受けている	1	2	3	4	5	9
② スタッフは、患者ケアに悪い影響がありそうなことを見かけたら気兼ねなく指摘する	1	2	3	4	5	9
③ 自分達の部署で起きた過誤について知らされている	1	2	3	4	5	9
④ 自分よりも権威のある者の決定や行為に対して、 自由に疑問を表明できると感じている	1	2	3	4	5	9
⑤ 私の部署では、過誤の再発防止策について議論している	1	2	3	4	5	9
⑥ 「何か違う」と感じてても質問しづらい雰囲気がある	1	2	3	4	5	9

D. あなたの部署の出来事の報告頻度についてお聞きします

以下のようなミスが発生した場合、所属部署での報告の頻度はどのくらいですか？あてはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

あなたの部署を念頭においてお答え下さい・・・

	まったく ない	まれで ある	ときどき	ほとんど いつも	いつも	該当 しない
① ミスが起きたが、そのミスが患者さんに影響を及ぼす前に発見されて 修正された場合、どれくらいの頻度で報告されますか？	1	2	3	4	5	9
② ミスが起きたが、そのミスが患者さんに悪影響を及ぼす可能性が ない場合、どれくらいの頻度で報告されますか？	1	2	3	4	5	9
③ 患者さんに害を及ぼさずミスが起きたが、被害がなかった場合、 どれくらいの頻度で報告されますか？	1	2	3	4	5	9

E. あなたの部署の医療安全を総合的に評価して下さい

医療安全について、この病院におけるあなたの所属部署の総合的なレベルとしてあてはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

特に優れている	とても良い	まあまあ	悪い	失格
▼	▼	▼	▼	▼
1	2	3	4	5

F. あなたの働いている病院についてお聞きします

以下の文を読み、あなたの勤務する病院について当てはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

あなたの病院を念頭においてお答え下さい・・・

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	強くそう 思う	該当 しない
	▼	▼	▼	▼	▼	▼
① 病院経営者たちは、医療安全を推進させるような職場風土を提供している	1	2	3	4	5	9
② 病院内の各部署間の連携がよくない	1	2	3	4	5	9
③ 患者さんが部署間を移動するとき、不手際が起きることがある	1	2	3	4	5	9
④ 協力しあう必要がある部署同士はうまく連携している	1	2	3	4	5	9
⑤ 勤務交替の際、重要な患者情報が抜け落ちることがよくある	1	2	3	4	5	9
⑥ 他の部署のスタッフと一緒に働くのは不愉快なことがよくある	1	2	3	4	5	9
⑦ 部署間で情報をやりとりする際、よく問題が起きる	1	2	3	4	5	9
⑧ 私の病院の管理運営のあり方をみると、医療安全を最優先事項としていることがわかる	1	2	3	4	5	9
⑨ 病院経営者たちは、有害事故が起きた後でしか医療安全に関心を払わないようである	1	2	3	4	5	9
⑩ 患者さんに最高のケアを提供するため、部署同士がよく協力している	1	2	3	4	5	9
⑪ 私の病院の勤務交代制は、患者さんにとって問題がある	1	2	3	4	5	9

G. 出来事の報告数について

過去12ヶ月間にあなたが作成し、提出した出来事報告書(医療過誤や有害事象など)の数は何件でしたか。当てはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

0件	1~2件	3~5件	6~10件	11~20件	21件以上	該当しない
▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼
1	2	3	4	5	6	7

H. あなたご自身についてお聞きします。さしつかえのない範囲でお答え下さい。

(a-1) 現在の病院におけるあなたの職種の大きな分類をお伺いします（常勤・非常勤は問いません）。最もあてはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

1. 医師 2. 看護師 3. コ・メディカル 4. 事務職員 5. その他

(a-2) 現在の病院におけるあなたのより詳細な職種をお伺いします（常勤・非常勤は問いません）。最もあてはまる番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

1. 医師	8. 保健師	15. 視能訓練士	22. 歯科衛生士	29. リネン係
2. 歯科医師	9. 理学療法士	16. 衛生検査技師	23. 歯科技工士	30. 清掃員
3. 看護師	10. 作業療法士	17. 介護福祉士	24. 社会福祉士	31. 守衛
4. 看護補助職員	11. 臨床検査技師	18. 言語聴覚士	25. 柔道整復師	32. 売店員
5. 研修医	12. 診療放射線技師	19. 臨床工学技士	26. 精神保健福祉士	33. 運転手
6. 薬剤師	13. 診療エックス線技師	20. 義肢装具士	27. 事務職員	34. その他
7. 助産師	14. 栄養士・管理栄養士	21. 医療社会事業従事者	28. 調理師	(記入欄)

(b) 以下の情報は調査結果の分析に役立つものです。該当する番号を1つだけ選んで○を付けて下さい。

① 性別	1. 男性	2. 女性	
② 年齢	1. 20歳未満 4. 40～50歳未満	2. 20～30歳未満 5. 50歳以上	3. 30～40歳未満
③ 勤務形態	1. 正職員 4. 派遣職員	2. 嘱託職員 5. その他()	3. 委託職員
④ 現在の専門職での実務経験年数	1. 1～2年目 4. 11～18年目	2. 3～5年目 5. 19年目以上	3. 6～10年目
⑤ 現在の病院での勤務年数	1. 1～2年目 4. 8～14年目	2. 3～4年目 5. 15年目以上	3. 5～7年目
⑥ 現在の配置での勤務年数	1. 1年目 4. 4～6年目	2. 2年目 5. 7年目以上	3. 3年目
⑦ 週あたりの平均勤務時間	1. 20時間未満 4. 60～80時間未満	2. 20～40時間未満 5. 80時間以上	3. 40～60時間未満
⑧ あなたは現在、管理職ですか	1. はい	2. いいえ	
⑨ 勤務中に患者さんと接する機会	1. ある	2. ない	
⑩ 勤務中に患者さんに直接ケアをする機会	1. ある	2. ない	

(c) あなたの病院における医療安全や過誤、出来事の報告について思うことをご自由にお書き下さい。

アンケートは以上です。御協力ありがとうございました。

4.3 安全文化の12側面と項目の対応

表 4.2 安全文化の12側面と項目の対応

(a)	出来事の報告される頻度 ミスが起きたが、そのミスが患者さんに影響を及ぼす前に発見されて修正された場合、どれくらいの頻度で報告されますか？ ミスが起きたが、そのミスが患者さんに悪影響を及ぼす可能性がない場合、どれくらいの頻度で報告されますか？ 患者さんに害を及ぼしうるミスが起きたが、被害がなかった場合、どれくらいの頻度で報告されますか？
(b)	医療安全に対する総合的理解 ★ 私の部署で深刻なミスが起きていないのは偶然でしかない ★ より多くの仕事をするために医療安全が犠牲になることは決してない ★ 私の部署では、医療安全に問題がある 私の部署の業務手順やシステムは、過誤を予防することができるようになっている
(c)	上司の医療安全に対する態度や行動 決められた医療安全の手順通りに仕事が行われると褒める スタッフから医療安全を向上する提案がなされたときは、真剣に考慮する ★ 非常にプレッシャーがかかってきたとき、上司や責任者は、通常の手続きを簡略化してでも急いで仕事をすることを求める ★ 医療安全の問題が繰り返し起きていても見過ごしている
(d)	組織的・継続的な改善 医療安全を向上させるための取り組みを積極的にやっている 私の部署では、ミスは良い変化へとつながってきた 医療安全を向上させるための変更を行った後、その効果を評価している
(e)	部署内でのチームワーク 私の部署では、職員はお互いに助けあって仕事をしている 急ぎの仕事が多くある場合、仕事を終わらせるために、チームとして一緒に取り組む 私の部署では、スタッフはお互いに敬意をもって対応している 私の部署のどこかが非常に多忙になった場合、他のスタッフが手助けする
(f)	オープンなコミュニケーション スタッフは、患者ケアに悪い影響がありそうなことを見かけたら気兼ねなく指摘する 自分よりも権威のある者の決定や行為に対して、自由に疑問を表明できると感じている ★ 「何か違う」と感じてもしつこい雰囲気がある
(g)	エラー後のフィードバック 出来事の報告に基づいて実施される変更があれば、それについてフィードバックを受けている 自分達の部署で起きた過誤について知らされている 私の部署では、過誤の再発防止策について議論している
(h)	過誤に対する非懲罰的対応 ★ ミスをすると不利な立場になると感じる ★ 出来事が報告される場合、問題そのものではなく、誰が起こしたかということが報告されるように感じる ★ スタッフは、自分のミスが人事記録に残されることを心配している
(i)	人員配置 仕事を行うのに十分な数の職員がいる ★ 私の部署のスタッフは、患者さんのケアに最適な労働時間よりも長時間にわたって働いている ★ 患者さんのケアにとって最良とは言えないほど常勤が少なく、派遣職員・臨時職員が多い ★ あまりにも多くのことを、あまりにも大急ぎでやろうと、「緊急事態」のように仕事をしている
(j)	医療安全に対する病院管理支援 病院経営者たちは、医療安全を推進させるような職場風土を提供している 私の病院の管理運営のあり方を見ると、医療安全を最優先事項としていることがわかる ★ 病院経営者たちは、有害事故が起きた後でしか医療安全に関心を払わないようである
(k)	部署間でのチームワーク ★ 病院内の各部署間の連携がよくない 協力しあう必要がある部署同士はうまく連携している ★ 他の部署のスタッフと一緒に働くのは不愉快なことがよくある 患者さんに最高のケアを提供するため、部署同士がよく協力している
(l)	仕事の引継ぎや患者さんの移動 ★ 患者さんが部署間を移動するとき、不手際が起きることがある ★ 勤務交替の際、重要な患者情報が抜け落ちることがよくある ★ 部署間で情報をやりとりする際、よく問題が起きる ★ 私の病院の勤務交代制は、患者さんにとって問題がある

注)「★」は逆転項目を意味する。逆転項目とは、質問の表現が本来あるべき様とは反対の状況を示している項目である。従って、逆転項目に肯定的な回答(例えば、まったくそうだ)をしている場合、安全文化は低いことを示している。

4.4 偏差値の計算法

4.4.1 欠損値のある項目の処理

■ 以下の条件に合致するデータを除外しました。

- 回答者の属性以外の全質問項目に未回答の者の全データ
- 「該当しない」が選択されている質問項目

■ 各質問項目（以下：項目）の欠損値（未回答）に、以下の式で求めた各施設における、項目ごとの平均得点を代入しました。

$$\text{各施設の項目 } X \text{ の平均得点} = \frac{\text{項目 } X \text{ の欠損値を除いた得点の総和}}{\text{項目 } X \text{ の欠損値を除いた回答数}}$$

4.4.2 偏差値を求める

■ 総合ランキング、職種別比較、部署別比較に用いた偏差値

$$\text{各回答者の総点の偏差値} = \frac{\text{各回答者の総得点} - \text{全回答者の総得点の平均値}}{\text{全回答者の総得点の標準偏差}} \times 10 + 50$$

ここで、各回答者の総得点とは、各回答者ごとの各項目得点の総和と定義しました。以上のようにして求めた偏差値から、全ての回答者、職種、部署ごとの中央値を算出し、貴施設の偏差値として扱いました。

■ 12 側面ランキング、職種/側面別比較、部署/側面別比較に用いた偏差値

$$\begin{aligned} & \text{各回答者の各側面ごとの合計得点の偏差値} \\ & = \frac{\text{各回答者の各側面ごとの合計得点} - \text{全回答者の各側面ごとの合計得点の平均値}}{\text{全回答者の各側面ごとの合計得点の標準偏差}} \times 10 + 50 \end{aligned}$$

ここで、各回答者の各側面ごとの合計得点とは、各回答者ごとの各側面ごとの総和と定義しました。各側面と項目の対応は、付録表 ?? (p. ??) をご参照下さい。

以上のようにして求めた偏差値から、全ての回答者、職種、部署ごとの中央値を算出し、貴施設の偏差値として扱いました。

4.5 項目別比較の計算法

4.5.1 肯定的に回答している者の比率

貴施設のデータから、全項目について、肯定的に回答している者の比率を以下の式で求めました。

$$\text{比率} = \frac{\text{肯定的に回答している人数}}{\text{有効回答数}}$$

ここで、肯定的とは、「ややそうだ」「まったくそうだ」または「ほとんどいつも」「いつも」という選択肢を選んでいることと定義しました。また、有効回答数は、

$$\begin{aligned} \text{有効回答数} \\ = \text{回収された質問票の枚数} - (\text{当該項目に回答していない人数} + \text{「該当しない」を選択した人数}) \end{aligned}$$

と定義しました。

例えば、貴施設は従業員が220人の施設で、210人に調査をしたとします。「私の部署では、職員はお互いに助けあって仕事をしている」という項目に対して、「ややそうだ」、「まったくそうだ」と回答した人は、150人だったとします。また、この項目に回答しなかった人、または「該当しない」と回答した人は、10人だったとします。この際の比率は、

$$.75 = \frac{150}{(210 - 10)}$$

となります。

4.5.2 否定的に回答している者の比率

同様に、貴施設のデータから、全項目について、否定的に回答している者の比率を以下の式で求めました。

$$\text{比率} = \frac{\text{否定的に回答している人数}}{\text{有効回答数}}$$

ここで、否定的とは、「ややちがう」「まったくちがう」または「まれである」「まったくない」という選択肢を選んでいることと定義しました。

4.5.3 全施設の平均比率、最高比率、最低比率

上記と同様に全施設における全項目の比率を算出し、全施設の平均比率を算出しました。また、それぞれの項目について、最も比率の高い施設の比率を最高比率、最も比率の低い施設の比率を最低比率と定義しました。